

令和6年度版 『あおぞら』『そよかぜ』年間指導計画作成資料

1. 年間指導計画作成における留意点

●子どもの主体的・対話的で深い学びの実現を図りましょう。

生活科の学習において、子どもは、自らの思いや願いを実現する活動を通して、「感動」や「達成感」を味わったり、「葛藤」や「つまづき」等の体験をしたりする中で様々なことを学んでいきます。そのとき、子どもの内から思わず表出される、言葉やしぐさ、身体表現等とともに、かかわる対象に思いをかけた行為や様々な表現活動の様子から、その子ならではの豊かな学びの内実や気付きの質の高まりが見て取れるとき、わたしたちは、深い学びの実現を確信することができると思います。それは、一つ一つの単元や年間を通した授業の積み重ねによってこそ育まれるものであることを踏まえて、年間指導計画の立案に当たりましょう。

●中心的な活動を軸に立案してみよう。

教科書の「二年間の単元とその配列および内容」を別紙（次ページ以降参照）に示しましたが、これらをすべて順番に扱おうとすると、時数不足や、子どもが主体となる単元展開にならないことが考えられます。教科書に示された内容を網羅的に扱うのではなく中心的な活動を軸に学習を展開することで、学習指導要領に示されている内容9項目の内、その多くを扱うことができます。

参考例として4つの年間指導計画例を掲載しますので、それぞれの自校における地域の実情・児童の実態に応じて、学級ごとに年間指導計画案を立ててみましょう。

●2年間を見通しながら、柔軟に対応していきましょう。

低学年児童の情緒面や認知面の発達と変容は、著しいものがあります。したがって、教師の一方的な都合による計画に固執せず、子どもの広がったり深まったりしていく願いや思いに柔軟に対応しながら、子どもとともにつくる学習活動を具現していくことが、子どもの気付きの質を高め、より主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながると考えます。その際、活動内容の決め出しと時間の配分について、2年間を見通した長い目とカリキュラム全体を俯瞰する広い目、そして、現状を洞察する鋭い目が欠かせません。

●動物飼育・植物栽培における、2年間の継続性とくらしを大切にしましょう。

対象となる動物や植物が何であれ、その成長を支え、見守り、かかわる中で、対象の命の尊さを実感していくには、その動物や植物とどれだけ、どんな時間をともにしたかということに尽きると考えます。後出の年間指導計画例には、ヤギ、アサガオ、ダイズを対象として例示しており、いずれも素材のもつよさや教材性の高さは、実証済みです。

しかし、いかに素材のもつ価値が高くとも、それを引き出したり、高めたりできるのは、子どもたちのかかわり次第です。毎日の生活の中に、飼育や栽培の取り組みがしっかりと根付いている、そんな飼うくらし、育てるくらしを生み出しましょう。

●他教科や単元相互の関連を意識しましょう。

一人の児童の学びは、個別の教科内で閉じるものではなく、それぞれの学びが相互に関連付き、つながり合っていると考えられます。そのため、特に、スタートカリキュラムにおける生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定等について工夫する必要があります。

また、生活科と他教科等において、学んだことがどのように関連付いていくのかを意識し、子どもの思いや願いを生かした学習活動を展開していくことで、さらに、他教科や単元相互の関連性が高まっていくと思われれます。

●障害のある子どもをはじめ、一人一人の子どもの状況等に応じた配慮を心がけましょう。

すべての子どもに十分な学びを確保するための様々な配慮を計画的、組織的に行うことが大切です。例えば、安全確保や危険回避に向けた体験的な事前学習の実施、様々な道具や器具等の扱いについて、係る習場面や子どもの生活経験等を踏まえた注意喚起、自分の経験を文章にしたり、そして、考えをまとめたりすることが困難な場合のサポートの具体、等々が考えられます。こうした配慮を行うに当たっては、困難さを補うという視点だけではなく、むしろ得意なことを生かすという視点から行うことにより、自己肯定感の醸成にもつながります。生活科は、多様な認知の特性をもった子どもが活躍できる教科なのです。

●生活科と道徳教育との関連を明確に意識しましょう。

生活科においては、自分自身、身近な人々、社会および自然と直接かかわる活動や体験を通して、自然に親しみ、生命を大切にするなど自然とのかかわりに関心をもつこと、自分のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えさせること、生活上のきまり、言葉遣い、振る舞いなど生活上必要な習慣を身に付け、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することなど、いずれも道徳教育と密接なかかわりをもっています。

それぞれの学習内容や教材を適切に相互に活用することで、学習効果を高め合うことができるように学習内容や時期等に配慮しましょう。

2. 二年間の単元とその配列および内容

それぞれの単元名の色は、領域的なまとまりを表しています。（青字は「人・ものとかかわるくらし」、緑字は「自然・行事とかかわるくらし」、赤字は「動物・植物とかかわるくらし」）

	春	夏	秋	冬				
一年	<p>うれしいな いちねんせい (あしたも がっこうに いきたいな) 幼保小の円滑な連携が図られるよう、遊びを中核としながら学校生活での活動範囲や視野を広げていく姿を大切に表した。</p> <p>地域の人に見守られながらの登下校、遊びや学校探検などを通じた上級生や教職員との出会いとふれあい、施設等の場所のとらえやかかわりを通して、自らの手で生活圏を広げ、楽しく安心な学校生活を送れるようになる単元。</p>	<p>はると なかよし 学校の行き帰りに見つけたものや、朝の会の話題などをきっかけに、春の野に繰り返し出かけ、からだごと春の自然事象とかかわったり春の恵みを楽しんだりしながら、自然に対する感受性を磨いていく単元。</p>	<p>わたしの あさがお 2年生から贈られたアサガオの種をきっかけに、自分で選んだ鉢に種をまき、発芽から開花までの成長を見続け、かかわっていく中で、アサガオへの親しみをもち、植物の命に触れていく単元。</p>	<p>まぶしい なつ 夏の様々な事象にからだごと思い切りぶつかり、夏ならではの体験を重ねていく中で、友だちや自然とかかわりを深めていく単元。</p>	<p>ひとつぶの たねから アサガオの花を咲かせ、種の数や数を観察したりして、花や葉の特性を生かした叩き染めや灯笼等の作品を制作する中で、一粒の種のもつ生命に心を寄せるとともに日常生活を工夫して豊かにしていく単元。</p>	<p>あきが いっぱい 秋の野に繰り返し出かけ、秋の自然とかかわりを深め、落ち葉や木の実などの感触を味わったり造形遊びやおもちゃ作りを楽しんだりするなど、情感豊かに表現していく単元。</p>	<p>ふゆも きらきら 寒さも忘れ雪や氷と思い切り遊ぶ中で、冬ならではの楽しみを味わったり、お正月の伝承遊びや季節の行事を行ったりしながら、春への期待を膨らめていく単元。</p>	<p>もう すぐ 二ねんせい この一年間で、できるようになったことをはじめ、精神的なたくましさや心の成長までも含めて振り返ることで、自分自身に自信や希望を抱くとともに、友だちや上級生、家族に感謝の気持ちをもつ単元。</p>
		<p>たんごの せつく いわれややり方を意欲的に調べたり、「たんごの せつく」にかかわる活動をしたりして、節句を祝ってくれる家族の気持ちや大事にされている自分を感じていく単元。</p>	<p>いきものと いっしょ② 生き物の成長に伴う変化に応じて、それにかかわる生活をよりよくしていく。特に、成長に伴う様々な変化に気付くとともに、みんなで協力して、生き物にとって具合のよい環境を考えながら、小屋等をつくり替えていくなど、よりよい世話に取り組んでいく単元。</p>	<p>いきものと いっしょ① ヤギなどの生き物と直接かかわり、世話をすることを通して、それらも自分たちと同じように生命をもっていることを実感し、生命あるものへの慈しみの気持ちを深めていく単元。</p>	<p>わたしと かぞく 家庭の話題から、自分と家族のつながりや考えたり家族の思いに触れたりして、家族のかけがえのない一人として生活していこうとする単元。</p>	<p>おつきみ 秋を味わうとともに、お月見のいわれ調べや団子作り、お月見会の準備など、自分たちで季節の行事を進めていこうとする単元。</p>	<p>てづくり おもち 身近な材料による、いくつかの手作りおもちやに出会い、自分の興味に合わせて作っては遊び、遊んでは作り直していく単元。</p>	<p>せつぶん 節分について調べたり、地域に伝わる節分行事を体験したりして、自分たちの豆まき会を通して、自分のくらしぶりを振り返る単元。</p>
二年	<p>二年目の 春 上級生になったよるこびを胸に登校し、新しい友だちとの出会いや教室づくりから2年生をスタートさせていく。また、再び、いつもの場所に出かけ、春を感じながら、1年生とは違う意欲的・自主的な姿でよりよい学級をつくっていくこととする単元。</p>	<p>わたしたちが すむ 町 いつもの場所からその先へと興味・関心を広げ、自分たちの住む町に繰り出し、調べたりかかわったりする中で、地域で生活したり働いたりしている人々と様々な場所とかかわりがわかり、さらに触れ合い、交流していくことで、地域の人々や地域に親しみや愛着をもっていく単元。</p>	<p>かがやく 夏 2度目の夏に、さらに視野を広げて地域の川で遊んだり、生き物を捕ったり飼育したりすることを通して、ふるさとの川への愛着を深め、夏の自然や生活ならではの様々な音やにおい等から、夏を感じ取っていく単元。</p>	<p>いっばい みのったね 自分たちが育ててきたダイズを収穫し、調理・加工して食したり、お世話になった方々と収穫祝いをしたりする中で、収穫のよるこびを実感し、恵みをもたらしてくれた畑に感謝していく単元。</p>	<p>はしれ はしれ 身の回りにある材料を使ってより真っ直ぐに、より遠くまで走る車を作りたいという願いをもち、試しては作ることを繰り返していく。車の走りとともにデザインも自分なりに工夫し、友だちとかかわりながら取り組んでいく単元。</p>	<p>冬と お正月 お菜洗いや雪囲いなどの冬支度をきっかけにして、冬やお正月にまつわる行事を行い、伝統の中に存在する人々の知恵や心に触れ、冬の生活をより豊かにしていく単元。</p>	<p>おもいで いっばい 生活科 (もうすぐ 三年生) 二年間の学級のあゆみや学習の記録を振り返り、友だちや家族に支えられながら、ともに成長できたことを実感していく。二年間の中で見つけた自分のよさや可能性を生かし、3年生の生活に夢と希望を抱いていく単元。</p>	
		<p>いっばい みのって 1年生のアサガオ栽培の経験を元に、クラスみんなで協力して、畑づくりを始め、ダイズの成長に応じた世話や鳥虫害や病気への対応など、様々な課題を乗り越えながらダイズ栽培に取り組んでいく単元。</p>	<p>すすめ すいすい号 水遊びをきっかけに、自分たちが乗れる舟を作りたいと願い、その実現に向けて材料を集め、作っては試す活動を繰り返しながら制作していく。そして、「出航の時」をみんなで見守り、達成感や冒険心を味わう単元。</p>	<p>いきものと いっしょ④ 生き物とともに過ごしたくらしを終い込んでいく。豊かにため込まれた体験を元に、様々な表現活動を通して振り返り、ともに育ててきた友だちや自分自身の成長を実感していく単元。</p>	<p>みんなで 行こう 「わたしたちが すむ 町」の活動から視野を広げて生まれた新たな課題や願いに寄せた目的地に行くために、自分たちで準備して、その夢の実現を達成していく単元。</p>	<p>大きく なった わたし 小さいころを振り返ったり、赤ちゃんを抱っこしたり、親子で思いを交流したりする中で、自分の成長には多くの人々の支えがあったことを知り、感謝とよるこびをもって生活しようとする単元。</p>		

3. それぞれの暮らし（領域的なまとまり）に含まれる単元一覧

自然・行事とかかわる暮らし

はると なかよし

- ・いつもの ばしょ
- ・はるの さんぽみち
- ・はるの おくりもの

まぶしい なつ

- ・わあ きもちが いい
- ・いつもの ばしょ
- ・なつの さんぽみち
- ・あめふり
- ・あめあがり
- ・なつやすみ

あきが いっぱい

- ・いつもの ばしょ
- ・あきの さんぽみち
- ・あきの おくりもの
- ・あきと あそぼう
- ・いっしょに あそぼう

ふゆも きらきら

- ・いつもの ばしょ
- ・ふゆの さんぽみち
- ・ふゆも げんき
- ・とうじの 日
- ・たのしい おしょうがつ
- ・おしょうがつの あそび
- ・はるの 七草
- ・おおゆきの 日に

二年目の 春

- ・いつもの ばしょへ
- ・あそこに 行けば
- ・春の あじ
- ・たんぼぼの ふしぎ

かがやく 夏

- ・いきものの いる 川
- ・耳を すませば

冬と お正月

- ・冬じたく
- ・年の くれ
- ・お年とりの じゅんぴ
- ・元日の 朝
- ・かきぞめ
- ・まゆ玉づくり
- ・小正月

おつきみ

- ・おつきみ したいな
- ・おつきみ しよう
- ・きょうの つきは
- ・おつきみかい

たんごの せっく **たなばた** **せつぶん** **ひなまつり**

人・ものとかかわる暮らし

うれしいな いちねんせい

- ・きょうから いちねんせい
- ・おはようございます
- ・あそぼうよ
- ・さようなら
- ・きをつけて かえるよ
- ・がっこう たんけん
- ・ここは どこかな
- ・なかよしに なりたいな
- ・おはなし ききたいな
- ・こうていへ いこう
- ・はなして みよう きいて みよう

わたしと かぞく

- ・おしえて いえの こと
- ・かぞくの ようす
- ・わたしに できる こと
- ・できるように なったよ
- ・こうして みようかな

もう すぐ 二ねんせい

- ・だいじな おもいで
- ・こんな ことが あったよ
- ・ありがとう 一ねんかん

新しい 教室

- ・ことしの ねがい

わたしたちが すむ 町

- ・みつけた
- ・おみせやさん
- ・こうみんかん
- ・ふるい たてももの
- ・ちいきの かたりべ
- ・つたえたいね とどけたいね
- ・人に やさしい 町
- ・みつめて みよう

みんなで 行こう

- ・どう やったら 行けるかな
- ・しゅっぱつだ

大きくなった わたし

- ・わたしの たんじょう
- ・小さい ころの わたし
- ・大きくなって きた わたし
- ・ありがとう

はしれ はしれ

- ・なんども ためして いろいろ くふう

すすめ すいすい号

- ・ういた ういた
- ・ふねを つくりたいな
- ・どんな ふねに しようかな
- ・さあ のろう

おもいで いっぱい 生活科

- ・みんなと すずんで やれたよ
- ・楽しみだね 三年生

もう すぐ 三年生

てづくり おもちゃ

動物・植物とかかわる暮らし

いきものと いっしょ①

- ・かって みたいな
- ・きょうから いっしょ
- ・よろこんで くれるかな

いきものと いっしょ②

- ・きょうも げんきかな
- ・やりたい こと いっぱい
- ・さあ おはいい
- ・さむく なって きたね
- ・いつもと ちがうね

いきものと いっしょ③

- ・おかあさんに なったんだね
- ・きょうも あいたいよ

いきものと いっしょ④

- ・いつも いっしょだったね

わたしの あさがお

- ・たねを もらったよ
- ・めを だしてね
- ・あっ めが でて
- ・おおきく なって きたね
- ・わあ さいた

ひとつぶの たねから

- ・きれいだな
- ・のこしたいな

いっぱい みのって

- ・だいずを そだてたいな
- ・はたけを かして ください
- ・まめは 生きて いる
- ・あっ めが 出る
- ・大きく なった だいず
- ・かわいい 花だね
- ・たくさん とれるかな
- ・はたけづくり
- ・たねまき
- ・あれっ
- ・だいずの おせわ
- ・まめの あかちゃん

いっぱい みのったね

- ・だいずの しゅうかく
- ・何が つくれそうかな
- ・生まれかわる だいず
- ・しゅうかくいわい
- ・ありがとう

4. 年間指導計画例

(1) 「自然とかがわる（野に出る）暮らし」を中心とした年間指導計画例

学年		1年				2年				
季節		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
内容項目	① 学校と生活	<p>あしたも がっこうにいききたいな</p> <p>野に出て、友だちや先生と一緒に遊び、学校の楽しい時を過ごす。</p>				<p>二年目の 春</p> <p>二年目の野に出る活動に思いを高める。</p>				
	② 家庭と生活	<p>わたしと かぞく</p> <p>普段の家族やお手伝いの話をきっかけに、家族の役割に気付いていく。</p>								
	③ 地域と生活	<p>うれしいな いちねんせい</p> <p>学校での楽しかったことを家で話し、家での出来事を、友だちや先生に話しをする。</p>		<p>たなばた</p> <p>さんぼの途中で見つけた竹を使い、たなばたを行う。</p>	<p>おつきみ</p> <p>おつきみについてのいわれや風習を調べ、野辺のすすきを使い、お月見会を行う。</p>	<p>ひなまつり</p> <p>自然の材料を使って、私たちのひな人形作りを楽しむ。</p>				
	④ 公共物や公共施設の利用					<p>みんなで 行こう</p> <p>交流で学んだことを遠く離れた図書館まで出かけて、さらに詳しく調べてみる。</p>				
	⑤ 季節の変化と生活	<p>はると なかよし</p>		<p>ふゆも きらきら</p>		<p>冬と お正月</p>				
	⑥ 自然や物を使った遊び	<p>「いつもの場所」を軸とする活動</p>								
	⑦ 動植物の飼育・栽培	<p>まぶしい なつ</p> <p>わたしの あさがお</p> <p>2年生からプレゼントされたアサガオの種をまいて、育てる。</p>	<p>あきが いっぱい</p> <p>いきものと いっしょ</p> <p>さんぼのときに見つけた生き物を捕まえ、飼育する。</p>	<p>かがやく 夏</p> <p>いっばい みのって</p> <p>さんぼで出会った方々から畑をお借りして、作り方も教わりながら、作物を育てる。</p>		<p>わたしたちが すむ 町</p> <p>さんぼで出会う人たちと触れ合い、お話を聞いたりかがわりを深めたりしながら交流する。</p>				
	⑧ 生活や出来事の伝え合い									
	⑨ 自分の成長	<p>もう すぐ 二ねんせい</p> <p>いつもの場所での一年間のことを振り返る。</p>				<p>おもいで いっばい 生活科</p> <p>自然や地域の人々とかがわった二年間を振り返る。</p>				

(4) 「植物とかかわる暮らし」を中心とした年間指導計画例

【内容項目】 ①学校と生活 ②家庭と生活 ③地域と生活 ④公共物や公共施設の利用 ⑤季節の変化と生活 ⑥自然物を使った遊び ⑦動植物の飼育と栽培 ⑧生活や出来事の伝え合い ⑨自分の成長

学年	生活科年間計画	学習計画											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年	学習計画												
	つけたい力	種のプレゼントをよこさず、アサガオを育てることへの期待を膨らませることができる。	アサガオの種まきのためのいろいろな準備がわかり、進んで取り組むことができる。	自分なりのまき方で種をまき、水やりや置き場所も決めて栽培への意欲を高めることができる。	発芽の感動を味わい、種のもつ生命を感じながら、成長に合わせて自分なりの世話ができる。	アサガオの開花をよこさず、その美しさに心を寄せることができる。	夏休み中の世話を通して、さらに「わたしのあさがお」への思いを深めることができる。	アサガオの成長や変化について絵日記や表などにまとめることができる。	アサガオの花を使ってできることを考え、友だちと協力し合いながら取り組むことができる。	灯籠祭りややりたいことを相談して、これまでのアサガオとのかかわりを振り返ることができる。	たくさんとれた種を来年の1年生へプレゼントする準備を意欲的に取り組むことができる。	自分のアサガオの様子をとらえて、ていねいに片付けたり、冬越しに挑戦したりすることができる。	これまでの活動を振り返り、アサガオへの思いが伝わるようにまとめたり、発表したりできる。
二年	学習計画												
	つけたい力	アサガオ栽培の経験を元にして、畑の作物栽培に意欲をもつことができる。	ダイズ栽培に向けたいろいろな準備を友だちと協力して取り組むことができる。	願いを込めた種まきのあと、発芽の頃合いを楽しみにして待つことができる。	新芽が鳥などに食べられる事態に遭遇し、みんなでその対応を考え、乗り越えていくことができる。	草取りや土寄せ等の世話をしたり、ダイズの様子をよく見たりして、様々な変化をとらえることができる。	ダイズの心配事に対して、自分たちで解決したり、専門家の方に相談して解決したりすることができる。	ダイズの様子から収穫の時期を決め出して、みんなで協力して収穫することができる。	収穫したダイズを使って作りたいものを出して、試行錯誤しながら調理に取り組むことができる。	豆がらをおいしそうに食べるゆき親子の様子から、ダイズを無駄なく活用できたことを実感することができる。	収穫し、おいしく調理ができたよこさずをお世話になった方と共有し、感謝の気持ちを伝えることができる。	これまでのダイズ日記や記録を元に様々な表現活動を通して学んだことを伝えることができる。	ダイズ栽培でたくさんのお話を学び、自身が成長できたことに感謝しながら、畑の手入れをすることができる。